

6月30日、COVID-19により3月から中止になっていた埼臨技の研修会が、今年度初めて行われました。そこで行われていた感染対策が今後の研修会の参考になるのでは？と思い報告いたします。

会場は浦和コミュニティセンター、定員66名、事前予約56人に対し参加者53人、参加問い合わせがあった賛助会員2名を合わせ55名の参加者でした。事前予約なしで訪れる会員等はいませんでした。

まず受付前にアルコールでの手指消毒（研究班で購入）、体温測定（研究班で購入）、37度以上の参加者がいないことを確認し（37度以上の参加者がいた場合は丁重にお断りをする予定であったがいませんでした）、受付業務を行いました。

受付時に事前予約があるか確認（ない場合はキャンセル待ちの形をとるため入り口で待機を予定）今回は参加者すべてが事前予約の参加者でした。事前予約の確認は日臨技システムの受付番号を聞くことで、スムーズに確認が行えました。写真は体温測定者がフェイスシールドをしています。装着していただくのは感染防止の面からは評価できますが、施設用品を流用してまでは求めません。装着する場合は研究班で用意をお願いしたいと考えます。

会員カードを用いての参加登録は、接触機会を減らす面からも有効で、参加時は持参していただきたく思いました。今年度から会員の参加費が無料になったことも接触の機会を軽減し、受付の効率化に繋がりました。

会場は定員の半数が求められていたので、3人掛けのテーブルで1列目は2人、2列目は1人・・・の形で椅子を配置しておりました。感染防止だけではなく、スライドがとても見やすい結果もついてきました。写真を見ておわかりのように参加者はマスクをしておりますが、忘れた参加者用にマスクも研究班で用意しておりました。ちなみに全員マスク着用での参加でした。

講演者はビニールシート越しに講演を行っており飛沫防止対策を行っておりました。テープで簡単にとめたためか、途中で剥がれてしまいましたが、対策に感謝いたします。

初めてのCOVID-19対策をとった研修会ではありましたが、個人的には大変満足のいく対応と思えました。事前の用意、対策を講じ研修会を運営した一般検査研究班の皆様に感謝申し上げます。

